press release 2021.03.25

湯河原惣湯

Books and Retreat

温泉と食と本

2021 年 7 月
湯河原に新しいリトリート施設がオープン

2021 年 7 月オープン
『湯河原惣湯 Books and Retreat』

都心から車でも電車でも約 1 時間半ほどの距離、神奈川県の西南端に位置し、海と山に囲まれた湯河原町は「湯河原温泉」として古くから有名な町。760 年前後に編まれた万葉集に湯河原温泉のその様子が記されていることから、少なくとも約 1300 年前にはこの地域に温泉が湧き出ていたことがわかります。

山あいに温泉旅館が立ち並ぶ温泉場の中心に位置する湯河原万葉公園。美しい小さな渓流と多様な植物が生息する自然のままの場所は、この土地に生まれ育った方達にとって子どもの時からずっと変わらない風景。公園の奥の広場にあった足湯の施設は、これまでたくさんの方に親しまれて来ました。何十年も何百年も前から、自然と人の穏やかな営みが育んできた景色です。

今年の夏、この万葉公園に「湯河原惣湯 Books and Retreat」が誕生します。樹々や川の色や香りや音を感じ、湯で緩み、食で満たされ、本に没頭できる、そんな場所です。

かつて湯河原では、河原から湧出する温泉を「惣湯」と呼んで、共同湯として温泉地全体で大切に管理、利用しました。湯の元にみんなが集まってくる、そして大切に楽しく、思い思いに豊かな時間を過ごせる場所に ....「湯河原惣湯」はそんな思いから名付けています。

所在地：神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 番地
URL yugawarasoyu.jp　　IG @yugawarasoyu

湯河原について

湯河原の人たちに「湯河原とは？」と尋ねると、多くの方が「熱海と箱根の間にひっそりある温泉地」と、微笑みながら控えめに誇らしげに語ってくれます。前出のとおり、少なくとも約 1300 年前には温泉が湧き出ていた湯河原。江戸時代になると、全国でも有数の名湯（古くは”薬師の湯”とも呼ばれていました）として湯治客を集めるようになりました。

明治 29 年、小田原～熱海間に人車鉄道 * が開通して交通の便がよくなると、東京をはじめさまざまな地域から多くの人が療養や観光のために湯河原を訪れるようになりました。さらに、明治 39 年には小田原～熱海までの海岸沿い約 25 ｋｍの距離を、既存の人車鉄道のレールを活用した小型のＳＬを使った列車が 1 日十数回往復で走るようになると、湯河原を訪れる人の数はさらに増えていきました。

温暖な気候、豊かな自然と名湯のある湯河原には、療養や創作を目的に数多くの文豪やアーティストも滞在してきました。画家の竹内栖鳳、横山大観、安井曾太郎、伊藤深水、また、夏目漱石、芥川龍之介、謝野晶子、島崎藤村、宇野浩二、国木田独歩らの姿もありました。谷崎潤一郎は晩年、ほとんどの時間を湯河原で過ごしたといいます。

湯河原には 100 を超える宿泊施設があります。湯が湧き出る藤木川（途中から千歳川になり海へ）沿いで最も旅館の多い地区は「温泉場」と呼ばれ、温泉／宿泊施設だけでなく、神社、商店、美術館なども点在し、ゆっくりと散歩するのに程よい大きさ。どの町にもやってきたように、湯河原にも時代の流れとともに、新しく生まれるものや失われていくものがありました。そして、長い間変わることなく心を捉える光景もまた、湯河原にはたくさんあり、訪れる人々を癒し、魅了しています。

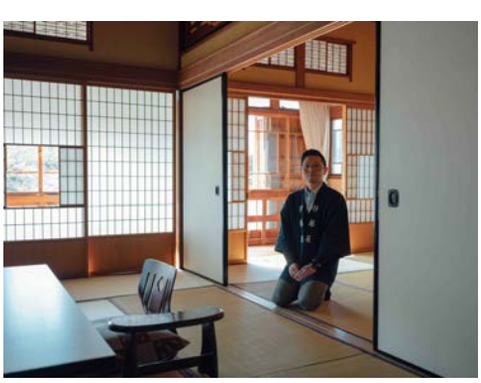
温泉場の古地図（明治 36 年作成）

惣湯通信　湯河原で活動する方々にお聞きした、湯河原のこと。

湯元通りで父の営んでいた駄菓子屋を継ぎ、55年前に精肉店をオープンした加藤功さん。メンチカツやコロッケを買いに来た人にゆっくり座って食べてもらいたい、周辺の旅館や店が減った湯元通りにかつての賑やかさを取り戻したい、そんな思いから精肉店の隣の空き店舗に「食事処 かとう」を開店したのは今から6年前。肉屋がつくるハンバーグや豚カツが美味しいのは言うまでもなく、アジフライも人気。「湯河原の魚屋がその時期に一番美味しいあじを入れてくれる」そうです。値段もとてもリーズナブルで、地元の人にも観光客にも人気の店。
「観光地値段ってあるでしょ。それが嫌で。湯河原に行ったら割と安いのに美味しかったと言ってもらいたい。」そんな加藤さんご夫妻の人柄や気持ちが、ボリュームたっぷりでおまけの副菜もたくさんついて出てくる定食ににじみ出ています。「釣りの大好きな肉屋です」と自己紹介する加藤さんは、子供の時は近所の川、若い時は芦ノ湖、今は福浦や熱海など近隣の海へ出て魚を釣ってきた。「物心ついた時からずっと魚を追いかけてきた」という加藤さんの大好きな景色はやはり海。おすすめは、温泉場から一山超えた町の運動公園からの眺め。真鶴半島、初島、穏やかな海、その奥に大島まで見え、加藤さんの人柄と同じおおらかな景色が広がっています。「釣り好き、魚好きには湯河原は最高の場所だよ！」

食事処 かとう
神奈川県足柄下郡湯河原町宮上548
0465-62-2413

1888年に創業した伊藤屋は、島崎藤村ほか多くの文化人が定宿とし、二・二六事件の舞台になるなど、湯河原の様々な歴史が蓄積されてきた宿のひとつ。現在4つの建物で構成され、うち2棟と門柱・石垣が国登録有形文化財に指定されています。8年前に公務員から由緒ある宿の主へと大転身、6代目となった伊藤義範さん。プレッシャーの中、伊藤屋と湯河原の歴史と文化の猛勉強から始まりました。「湯河原に脈々と続く歴史、文化、そして愛してくれるお客様がいるこの宿を、自分の代でなくすのは絶対に後悔する」その一心だったと言います。国の有形文化財といっても「登録ー」の場合、維持管理は自らで行う必要があります。建物が失われないよう、興味を持ってもらい、使ってもらい、そして点検手入れを欠かさない、この循環の維持には相当な努力を要しますが、「今では作れないガラス、伝統的な組子の精緻な技が宿る障子、時代時代に流行った様式など、歴代の主が維持して来たものを私たちも次の世代へ繋ぎたい」という思いから。
ある日、倉庫から見つかった古い火鉢。暖をとる際に手を載せていた縁の部分のすり減りに、滞在した客人たちの痕跡の美しい積み重なりを感じたと言います。
「長年使われてきた建築や部屋に入ると、瞬時に空気が変わります。時代時代の人の気配や時間の繋がりを感じることも、滞在のお楽しみの一つにしていただけたら。」



伊藤屋
神奈川県足柄下郡湯河原町宮上488
0465-62-2004
itouya-net.jp

『湯河原惣湯 Books and Retreat』

オープン：2021 年 7 月（予定）
所在地：神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 番地
URL　yugawarasoyu.jp
IG　@yugawarasoyu

運営：湯河原惣研株式会社
マネジメント：林雄二郎（株式会社 NOTE）
コーディネート：中西佳代子（癒し場へ）
設計：岡昇平、広瀬裕子（設計事務所岡昇平）
アートディレクション：根本真路
ウェブディレクション：小須田英盛
写真：山本康平

【湯河原惣湯内カフェ、レストラン】
ディレクション：広瀬裕子（設計事務所岡昇平）
レシピ制作：赤城美知子、松村康基
シェフ：松村康基

【PRESS CONTACT】
当プロジェクトに関するご質問や、取材・掲載等のご依頼は
下記プレス担当までご気軽にお問い合わせください。

竹形 尚子（デイリープレス）
tel. 090-1531-6268 / 03-6416-3201
naotakegata@dailypress.org